◎**元旦礼拝聖句**　説教題「誇る者は主を誇れ～恥は私のもの、栄光は主のもの～」　（エレミヤ書９章２３，３４節）

「誇る者は、ただ、これを誇れ。悟りを得て、わたしを知っていることを。わたしは主であり、地に恵みと公正と正義を行う者であるからだ。まことに、わたしはこれらのことを喜ぶ。―主のことば。」(9:24)　（コリント人への手紙第一１章２６節～２章５節）

「しかし、あなたがたは神によってキリスト・イエスのうちにあります。キリストは、私たちにとって神からの知恵、すなわち、義と聖と贖いになられました。『誇る者は主を誇れ』と書いてあるとおりになるためです。」(1:30,31)

◎「一年の計は元旦にあり」とあります。私たちはともすれば自分自身を誇りやすいのです。それだけではなく何かを誇りとして歩もうとしがちです。しかし今朝、み言葉を通して私たちが誇りとすべきものは何かを教えられたい。

◎エレミヤは、ユダのヨシヤ王の第13年に預言者として召された。エホアハズ、エホヤキム、エホヤキン、ゼデキヤの時代、そして更に捕囚後のしばらくの期間、活動した（BC627年～BC583年頃まで）。エレミヤ書７章１節から20章18節までは「エホヤキム王の時代」で、９章には「神の審判に対する嘆きの歌」が主題です。特に23,24節には、人間は他人の3つのことを尊敬する傾向があります。知恵、力、財力です。しかし神様は、個人的に神様を知り(単に知識としてではなく、契約関係の中で深く交わる)、恵み（神があわれみ深く、契約の愛を持って人を取り扱うこと)、公正(神が人間関係や社会の中で、契約に基づき、人を公正に取り扱うこと)、正義(どんな場合にも、神は真理にかなって行動されこと）をもって御業をなさろうしておられるのです。

◎コリント人への手紙第一1章18節～2章5節までの主題は「十字架に対する誤解」です。十字架の言葉はイエス・キリストの福音です。ギリシヤ人たちは自分のたちの知識や学問を誇っていました。しかし技術や知恵があっても、神の御国に入ることが出来ない。行いによって永遠のいのちを手に入れることが出来るといって誇ることの出来る人は誰もいない。救いはイエスの死を通して、神様から与えられるものです。自分を救うために出来ることは何もないのです。私たちはイエス様が私たちのためにしてくださったことを受け入れさえすればよいのです。神様は私たちの避け所であり、キリスト様と一致し、一つとされた結果として、私たちは神様の知恵を受け(コロサイ2:3)、神様に受け入れられ(Ⅱｺﾘﾝﾄ5:21)、聖くされ(Ⅰﾃｻﾛﾆｹ4:3-7)、私たちは代価は既に支払われている(ﾏﾙ10:45)。この1年間、キリストのみ、見え崇め褒め讃えられる歩みを求め続けましょう。